

スギ集団葉枯症の実態解明と被害対策

林業研究部

1. 研究の背景

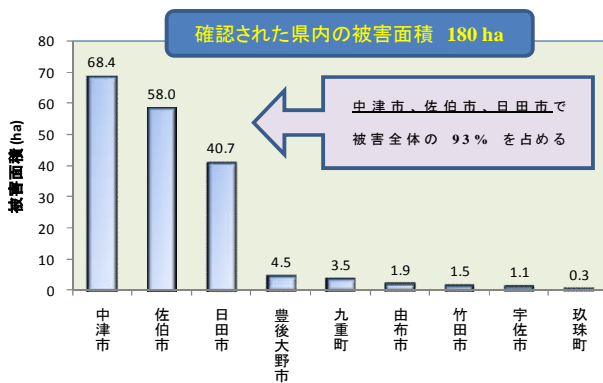
近年、スギ集団葉枯症による衰退被害が県内各地のスギ壮齢林を中心に発生している。本症状については、発生原因等が明らかにされておらず、被害地において具体的な被害対策が行われていない。このため、県内の被害実態を解明し、有効な被害対策について検討を行った。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

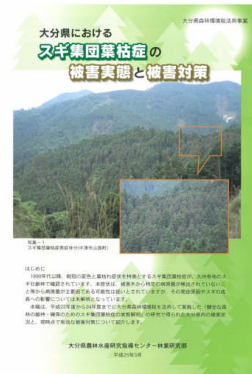
本症の発症は、品種、地質などの各要因が複合的に影響していると考えられた。今回、被害の実態から考えられる対策について取りまとめた。

表層地質別の被害面積

県北西部				県南部			
表層地質	面積 (ha)	表層地質	面積 (ha)	表層地質	面積 (ha)	表層地質	面積 (ha)
変朽安山岩	117.5	変朽安山岩・緑色凝灰岩	4.1	砂岩・砂岩泥岩互層	46.7	火山碎屑物	3.8
安山岩質岩石	48.6	溶結凝灰岩	3.4	泥質岩・石灰岩・チャート・スランプ礫岩・苦鉄質火山岩類	23.8	泥岩・凝灰岩質岩	3.5
火山碎屑岩	18.8	流紋岩	2.4	泥岩・砂岩泥岩互層	23.6	石灰岩	3.2
凝灰角礫岩	17.8	デイサイト質岩石	1.7	砂岩・泥岩	6.8	結晶片岩類	2.7
輝石安山岩	10.0	凝灰岩・含礫凝灰岩	1.6	砂岩粘板岩互層	6.1	チャート	2.2
両輝石安山岩	9.7	その他	4.1	凝灰岩・凝灰岩質泥岩	5.5	その他	4.5
輝石角閃石安山岩	6.5	合計	228.8	流紋岩質岩	4.2	合計	116.7



市町村別の被害面積



作成したパンフレット

被害対策方法

- ・発症林分では症状の年次経過を注意深く観察し、伐採の可否を判断
- ・本症の被害地でスギの再造林を行う場合は、再び発症する可能性が高いため以下の方法で、被害の軽減、回避を検討する必要がある。
 - ① 低感受性スギ品種(オノアオ、コバノウラセバル)の植栽
 - ② 他樹種の植栽
 - ③ 40年生以下での主伐

3. 期待される効果

- ・スギ集団葉枯症の被害対策の推進
- ・安定的な木材生産

4. 担当機関連絡先

林業研究部 森林チーム
 TEL : 0973-23-2146
 住所 : 日田市大字有田字佐寺原35